

町田市地域活性化懇談会 概要

2009年3月

町田市地域活性化懇談会

目次

1. 町田市地域活性化懇談会とは

(1)背景と目的	1
(2)5つのテーマ	2
(3)委員名簿	
①委員名簿	3
②幹事一覧	4
③運営協力者	4

2. 懇談会概要

(1)第1回地域活性化懇談会	6
(2)第2回地域活性化懇談会	8
(3)第3回地域活性化懇談会	10
(4)第4回地域活性化懇談会	12
(5)第5回地域活性化懇談会	14
(6)第6回地域活性化懇談会	16
(7)第7回地域活性化懇談会	18
(8)第8回地域活性化懇談会	22
(9)第9回地域活性化懇談会	25
(10)第10回地域活性化懇談会	28

参考資料

用語解説	31
------	----

本文中の*のついた用語は、巻末に用語解説を掲載しています。

1. 町田市地域活性化懇談会とは

(1)背景と目的

町田市は、幕末から明治時代に「絹の道」の中継地であったという歴史を持ち、昔から人・物・文化の交流が盛んに行われてきました。今でも、鉄道では JR 横浜線と小田急線、道路では東名高速道路や、国道 16 号線と国道 246 号線が交差するなど、重要な交通結節点となっており、多くの人や物が行き交っています。特に、町田駅周辺の中心市街地は、都内でも有数の商業拠点になっています。

商業のほかにも、町田市の特長はたくさんあります。住宅街の近くに豊かな緑や多様な生態系が保たれている谷戸山が比較的多く残されており、このようなまとまりのある自然環境は、首都圏において貴重な資源と言えます。また、サッカーをはじめとするスポーツ活動や住環境を保全する市民活動に代表されるように、市民一人ひとりの充実しているパワーも特長の一つとして挙げられます。

一方では、鉄道は市域の端を通るため、自宅から最寄駅までの移動手段はバスや自動車を利用することが多いうえに、未整備の幹線道路もあることから、市内では慢性的な交通渋滞が発生しています。中心市街地においては、同じ商圈に新たな商業拠点が次々と成長しており、その地位が脅かされる状況にあります。豊かな緑や谷戸山も十分に活用されておらず、市民をはじめ首都圏に住む人々からの認知度も低いため、身近にある自然の魅力を発揮しているとは言えません。また、かつて市民パワーのシンボルの一つでもあった団地は、今では住民の高齢化とともに施設の老朽化が進み、その活力を失っています。

そこで、どのようにすれば町田市全体を活性化できるかについて、多角的な視点で意見交換を行うため、私的諮問機関である「町田市地域活性化懇談会（以下、「懇談会」といいます。）」を設置しました。懇談会では、地域活性化に関する特に重要な 5 つのテーマ（次ページ(2)参照）について、各テーマの専門委員、市長、副市長、テーマ担当部長が専門分野や立場を超えて意見を出し合い、自由闊達な懇談を行いました。この中で、町田市を取り巻く現状を分析することで、中長期的に有効なコンセプトを見出し、地域活性化を図るための新しい政策方針の方向づけの検討を行いました。

(2) 5つのテーマ

	テーマ	懇談項目例
①	中心市街地活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・産業振興について ・中心市街地の土地高度利用について
②	観光・スポーツ・コンベンション振興 (2007年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・町田市の魅力を高めるための観光・コンベンション振興について ・市民の健康増進のためのスポーツ振興について ・プロスポーツチームの育成と誘致について
	スポーツ振興 (2008年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の健康増進のためのスポーツ振興について ・プロスポーツチームの育成と誘致について
③	交通・街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・広域的な交通を展望した街づくりについて
④	文化芸術振興 (2007年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化、芸術の活動を支える場づくり、施設づくり(コンベンションホール)の構想について
	観光・コンベンション・文化芸術振興 (2008年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化、芸術の活動を支える場づくり、施設づくり(コンベンションホール)の構想について ・町田市の魅力を高めるための観光・コンベンション振興について
⑤	北部丘陵	<ul style="list-style-type: none"> ・農業振興地域の指定を含む北部丘陵のあり方について ・市街化調整区域の規制と誘導について

※②と④のテーマについて、懇談会の内容の推移に併せ、2008年度にテーマの変更を行いました。

(3) 委員名簿

① 委員名簿

(敬称略)

役職名	氏名	備考
法政大学大学院 政策創造研究科教授	くろかわ かずよし 黒川 和美	《テーマ》 ○中心市街地活性化
法政大学 経済学部教授	かりや はるお 刈谷 春郎	《テーマ》 ○観光・スポーツ・コンベンション 振興 (2007年度) ○スポーツ振興 (2008年度)
東京工業大学大学院 社会理工学研究科教授	なかい のりひろ 中井 検裕	《テーマ》 ○交通・街づくり
神戸流通科学大学 サービス産業学部教授	たかはし かずお 高橋 一夫	《テーマ》 ○文化芸術振興 (2007年度) ○観光・コンベンション・文化芸術 振興 (2008年度)
(株)ニッセイ基礎研究所 上席主任研究員	いけべ このみ 池邊 このみ	《テーマ》 ○北部丘陵
市長	いしが じょういち 石坂 丈一	
副市長	いわさき はるたか 岩崎 治孝	
副市長	まちだ しゅうじ 町田 修二	2008年6月30日まで
副市長	はま かよこ 浜 佳葉子	2008年7月1日より

②幹事一覧

(敬称略)

役職名		備考
2007年度	2008年度	
企画部長	政策経営部長	幹事長
企画部 政策審議室長	政策経営部 経営改革室長	副幹事長
	政策経営部 広報広聴担当部長	2008年5月1日から
市民部 生活文化担当部長	文化スポーツ振興部長	《テーマ》 ○文化芸術振興 (2007年度) ○観光・コンベンション・文化芸術振興 (2008年度)
生涯学習部長		《テーマ》 ○観光・スポーツ・コンベンション振興 (2007年度) ○スポーツ振興 (2008年度)
環境・産業部長	経済観光部長	《テーマ》 ○中心市街地活性化 ○観光・スポーツ・コンベンション振興 (2007年度) ○観光・コンベンション・文化芸術振興 (2008年度)
環境・産業部 北部丘陵担当部長	経済観光部 北部丘陵担当部長	《テーマ》 ○北部丘陵
建設部長	建設部長	
都市計画部長	都市づくり部長	《テーマ》 ○交通・街づくり

③運営協力者

(敬称略)

役職	氏名	備考
法政大学大学院 経済学研究科黒川研究室	みやした ともひさ 宮下 量久	町田市の現状を調査・分析

2. 懇談会概要

発表内容や懇談内容を、次のようなグループに分けてまとめています。

テーマ	グループ	グループの主な内容
全体	町田市の現状	町田市の現状と課題
中心市街地活性化	歴史・文化	歴史・文化をふまえた中心市街地の街づくり
	中心地と郊外	中心地と郊外の投資配分の検討
	時間消費	賑わいがあり、時間を消費できる中心市街地の街づくり
	再投資	民間企業が中心市街地に大規模な再投資をする仕組みの構築
観光・スポーツ・コンベンション振興 (2007年度) スポーツ振興 (2008年度)	いつでもどこでも	いつでも、どこでも、だれもがスポーツを楽しめる環境の創出
	プロスポーツ集団	プロスポーツ集団の育成
	スポーツと芸術の融合	市民参加型スポーツと芸術融合型お祭り空間の創出
交通・街づくり	公共交通不便地区	公共交通不便地区における急速な高齢化への対応
	自動車抑制・公共交通の充実	自動車を抑制することによる公共交通の充実
	計画的な大規模開発	計画的な大規模開発の住宅の活用
	土地利用	土地利用のあり方の検討
	街づくり	市民主導の街づくりの再構築
文化芸術振興 (2007年度) 観光・コンベンション・文化芸術振興 (2008年度)	文化享受能力	文化の享受能力とマーケットの形成
	文化的演出	文化的演出による集客力の向上
	持続的地域経営集客モデル	持続的地域経営集客モデルの創出
北部丘陵	アクセス整備	北部丘陵の位置づけに見合うアクセスの整備
	景観再生	北部丘陵の景観再生
	地域・企業の活用	地域の人材やNPO、企業等の活用
	施設整備	人が集まる地域ブランドイメージを構築できる施設の整備
	市職員の能力向上	市職員の企画力と営業力の向上

(1) 第 1 回地域活性化懇談会

開催日	2007年7月13日(金)	
会場	町田市役所 市長公室	
出席者	(委員) 7名 (幹事) 8名 (運営協力者) 1名	
内容	発表	町田市の現状について、運営協力者が発表 「町田市のポテンシャルと活性化に向けた課題」 発表者：宮下氏
	懇談	地域活性化全般

発表 「町田市のポテンシャルと活性化に向けた課題」の要旨

発表者：宮下氏

町田市の現状

- ・通勤状況からみると、都心よりも周辺都市とのつながりが強くなっている。
- ・マンションの相次ぐ建設により、人口は増加傾向にある。
- ・大学生の割合が多い。
- ・町田駅を中心とした半径 10 キロ圏内に 180 万人住んでいる（政令指定都市レベル）。
- ・町田駅を中心とした半径 10 キロ圏内に住む人の 3/4 は神奈川県民である。
- ・拠点性をもつために必要なものとして、次のようなものがあげられる。
金融（都市銀行）、情報通信（放送局）、文化（Jリーグ）、集客力、
鉄道（地下鉄・LRT*）、上質な住宅地



懇談 「地域活性化全般」の主な意見

町田市の現状

○人口

- ・職住近接の傾向がある。
- ・町田市に住むのは通勤するためであることが多く、終の棲家になっていないことが大きな問題である。
- ・人口密度が高いという特徴を生かせないか。

○土地

- ・中心市街地は地価が高い。
- ・大学の誘致は、直接税収の増加にはつながらないが、文化環境を高め、価値のある都市を作ることにつながる。
- ・価値のある都市を作るには、周辺に 140～150 万人規模のその価値を享受する人がいないと無理である。

○情報

- ・情報発信するには、ポテンシャルがないとできない。
- ・情報発信の手段は、フリーペーパー、フリー放送局、フリー番組とかがよい。

○集客

- ・メディアとどのように連携するかが大きな要素になる。
- ・市民が結集して、楽しく、熱い思いを共有できれば盛り上がる。
- ・本物の美しさを近くで見ることができる機会は、人が集まるための起爆剤になる。
- ・人を集めようとしている物や場所は、広域的に受け入れられる名称にして、みんなの気持ちをつかむことも必要である。
- ・人が集まれる場所として、大規模な箱モノは他に行けばあるので、小回りのきくスペースが必要である。
- ・中心市街地にフリースペースとして使える空き店舗がない。
- ・空いている学校の教室が使える。

○中心市街地

- ・フランチャイズの店が多い。
- ・地域と関わりのない経営者の割合が高い。
- ・中心市街地に人を集めるには、物販よりも飲食に力を入れるのが効果的である。
- ・裏通りのお店の店員や客として、年齢を問わず街に興味を持っている人がいることは、中心市街地が活性化し続けていくためには重要である。
- ・公民館通りに商業者による街づくりの協議会があり、市内では他に 2～3 団体ある。

○文化

- ・文化を育てるには、それを支えるインフラ整備が必要である。

○団地

- ・町田市の団地は、分譲と賃貸がモザイク状になっているため、建て替えは難しい。
- ・交通の便が良くない。

(2) 第 2 回地域活性化懇談会

開催日	2007年7月31日(火)	
会場	町田市立国際版画美術館 講堂	
出席者	(委員) 8名 (幹事) 8名 (運営協力者) 1名	
内容	発表	テーマについて町田市の現状や提案を、担当専門委員が発表 「交通・街づくり」 発表者：中井委員 「町田市のポテンシャルと活性化に向けた課題」 発表者：宮下氏
	懇談	交通・街づくり

発表 「交通・街づくり」の要旨

発表者：中井委員

公共交通不便地区

- ・公共交通不便地区*に住む高齢者の移動手段を確保する必要がある。
- ・乗り合いタクシー*や NPO によるお出かけサービスなどの公共的交通の充実が必要である。

自動車抑制、公共交通の充実

- ・休日になると自動車利用が増加する。
- ・未整備の計画道路や狭い車線が存在し、幹線道路は常時混雑している。
- ・バスの定時性、速達性*に問題がある。
- ・バスの定時性、速達性を確保する仕組みの例として、フィーダー型路線*（盛岡市）、PTPS*、バス専用レーン*、コミュニティバス*（京都市醍醐）、BRT システム*（クリチバ*）などがある。
- ・自動車を抑制する方法として、中心部へのアクセス制限、混雑の割合に応じて賦課金をかけるコンジェスジョン・チャージ、バスの利便性向上などがある。

計画的な大規模開発

- ・団地の入居率は90%以上である。
- ・団地では1世帯あたりの人数が減っているため、急速に人口が減少しており、高齢者や若い人ばかりの状態である。

土地利用

- ・一般民間開発は、小規模開発の割合が多く、総合的な土地利用ができていない。
- ・小規模開発に対する行政のチェック機能を整理する必要がある。
- ・景観法も視野に入れながら、統合的な土地利用を行う必要がある。

街づくり

- ・街づくり条例*に基づく市民団体が少ない。
- ・市民団体の育成には、行政からの仕掛けが必要である。

町田市の現状

- ・町田市の基本的な都市像としては、都市型の高度機能、良好な住環境、身近な自然環境があげられる。
- ・課題としては、急速な高齢化に伴う移動のあり方の検討、計画的な大規模開発の住宅の活用、小規模開発に対する適切な規制、市民主導の街づくりの限界があげられる。

発表 「町田市のポテンシャルと活性化に向けた課題」の要旨

発表者：宮下氏

町田市の現状

○町田市への通勤流入増加の要因

- ・卸・小売業、教育・学習支援業が多い。
- ・30代と60代の女性が多い。

○人口増減の要因

- ・大学生の割合が高いが、卒業とともに転出している。
- ・30代の転入が多いことから、結婚を機に転入し、そのまま住み続けていることがわかる。

懇談 「交通・街づくり」の主な意見

公共交通不便地区

- ・移動手段がなく、困った状態ということに市民が危機感を覚えると、自分たちでどうにかしようという動きが出てくる。
- ・NPOや市民団体が採算とれるレベルで乗り合いタクシーを運営している例がある。
- ・町田市では、昨年から公共交通空白地区において、市とバス会社が協力してコミュニティバスの運行を始めており、好評である。

自動車抑制、公共交通の充実

- ・バスに乗る人を増やす方法として、運転手のマナー向上も効果的である。
- ・公共交通不便地区の場合、醍醐型コミュニティバスのような街づくり団体をどう作り上げていくかを考えたほうがよい。
- ・公共交通不便地区では、長期的なセーフティネットの視点から、行政は最低1日に数本の移動サービスを提供する必要がある。
- ・朝夕とデイサービスの送迎に使用しているマイクロバスを昼間にコミュニティバスとして運行するのも考え方としてある。
- ・大きな道路整備が進むと、連節バス*を運行させることができる。
- ・国道基準により連節バスを走らせるのは難しい。
- ・道路の幅を広げるには、容積率を上げて、地権者にインセンティブを与える方法がある。
- ・容積率だけを上げるのではなく、統一性を持たせた景観に配慮し、インセンティブを与えていくのがよい。

街づくり

- ・市の人口の割に街づくり団体は少ない。
- ・緑の保全、水関係等のテーマ型市民団体は結構ある。
- ・緑地の所有者と利用者が別主体のため、対立構造になりやすい。
- ・行政と地元の街づくり協議会が一緒に考え、実行できるような土壌ができるとうよい。
- ・緑の保全、コンパクトシティ*、職住近接、自動車依存の脱却からCO2の減少という方向性が見えるとよい。
- ・市内を空間的に見て、交通量の負荷を与えられているエリアといい環境をキープしているエリアと2つに分かれる。

(3) 第 3 回地域活性化懇談会

開催日	2007年8月23日(木)	
会場	町田市立中央図書館 中集会室	
出席者	(委員) 8名 (幹事) 7名 (運営協力者) 1名	
内容	発表	テーマについて町田市の現状や提案を、担当専門委員が発表 「中心市街地活性化とその課題」 発表者：黒川委員、宮下氏
	懇談	中心市街地活性化

発表 「中心市街地活性化とその課題」の要旨

発表者：宮下氏

町田の現状

- ・ 地価は、町田駅周辺に限らず、人口が増加している地域では上昇している。
- ・ 人口密度は、橋本駅周辺や南町田駅周辺、国道沿いの地域で上昇している。
- ・ 中心地（町田駅 1 キロ圏）よりも郊外に多くの公共投資がされてきた。

発表者：黒川委員

中心地と郊外

- ・ 中心市街地と郊外のどちらへの公共投資が必要なのか把握する必要がある。
- ・ 郊外の開発には、環境破壊や交通事故の要因ともなる交通混雑を新たに作り出すなど、マイナスの外部性も伴うため、これを開発者に負担させる仕組みを作らないと中心市街地との公平な競争にならない。
- ・ 町田市の場合、まちづくり交付金は中心地の政策のみに活用している。
- ・ 中心市街地活性化は、商店街のためだけではなく、まちや消費者、交通弱者のための活性化でもある。
- ・ 町田駅周辺に外からきて働く人は多く、金融機関・情報通信・オフィス運営のサポートをする会社がどのくらいあるかが、拠点性をはかるときのポイントとなる。
- ・ 公共交通やトランジットモール*の活用という街づくりの考え方から、環境に優しい職住近接型のライフスタイルの追及するコンパクトシティ*というコンセプトが重要である。

時間消費

- ・ 中心市街地を顧客に合わせてまちを変えようとする平均 30 年かかる。

再投資

- ・ 大店法の見直しと中心市街地活性化法の見直しについては、郊外と中心地のありように関する競争環境を考えることを意図している。
- ・ 中心市街地は地価が高く、投資を憂慮している傾向があるため、周辺の商業地との競争環境の維持が重要になる。
- ・ ダイナミックに土地の利用が変化していることや周辺商業地のことを意識しながら、中長期的に町田市がどのように土地利用の変化に対応し、社会資本の整備を進めるかということに関する議論をしなければならない。
- ・ 中心市街地に競争圧力を与え、この地域のポテンシャルを上げる必要がある。

懇談 「中心市街地活性化」の主な意見

歴史・文化

- ・昔、八王子と横浜を結ぶシルクロードの中間地点、つまり物流の拠点であったという歴史がある。
- ・新住民が多いため、本来ある文化的なものや知識階層としてのプライドの高さが市民性として伝承されていない。
- ・新住民にとって、新しいアイデンティティが必要だと思う。
- ・新住民の多くはサラリーマンなので、サラリーマン文化がある気がする。
- ・中心市街地は、文化や歴史を経済に転換する装置であり、町田市 of 文化や歴史とは何かを考える必要がある。
- ・中心市街地の文化や歴史をどのように面的に広げるかが課題である。
- ・中心だと認める文化性がない場合、行政がよりどころとなるようなアイデンティティをつくれぬものか。

中心地と郊外

- ・駅周辺に商業系の集積が多いのは、小田急線沿線では新宿、下北沢、町田くらいである。
- ・中心市街地は大きく集積しているが、フリンジ*は弱い。
- ・中心市街地の範囲として、100ヘクタールは広すぎるため、商店街もいくつかに分かれてしまい、まとまりにくい。
- ・行政がお金をかけないでできることは、規制緩和である。
- ・容積率の規制緩和が再開発や利益追求にどれだけ役に立つのか調査する必要がある。

時間消費

- ・中心市街地のペDESTリアンデッキは通路なので、他の使い方ができない。
- ・思い切ってデッキとデッキの間をふさいで蓋をしたらどうか。
- ・中心市街地は交通の拠点でもあり、目的がなくても人が来るので、そのことは大事にしたほうがいい。
- ・交通をストップして一定時間だけ歩行者専用にすることができるかなど、交通面で警察が協力的かどうかポイントになる。
- ・道路のコントロール（通行止め、管理）を市民や商店街の人がするという特区を取った地域がある。
- ・高層で集積すると、基礎的な商業のポテンシャルが高まる。
- ・中心市街地で家業型の商店は10軒程度しかなく、フランチャイズや新しい経営者が入ってきている状況である。
- ・固定客はついているのに、自分の代で終わらせてしまう老舗の商店が多い。
- ・地権者と経営者との間のトラブルで、業態がうまく変えられない状況が起こっている。
- ・商店街で何か統一感のあることをしようとしたとき、2/3の賛成が得られたら実行できるというような強制的なものがない限り、「総論OK、各論反対」のようなことが起こる。
- ・買い物だけでは郊外のショッピングセンターのほうに魅力があるため、それに対抗する経済転換の方法として、交流やイベント、観光があげられる。
- ・賑わいをつくるためには、商店街で商品を触れることができるようにするなど、中心市街地で時間をつぶせるものがないといけない。
- ・究極の時間消費は、そこに住んでいることである。
- ・町田市の中心市街地くらいの規模だったら、もっとタワー型マンションがあってもいい。
- ・小田急線とJR横浜線の町田駅自体をどう生かすかも問題である。

(4) 第 4 回地域活性化懇談会

開催日	2007年9月27日(木)	
会場	まちだ中央公民館 学習室 1・2	
出席者	(委員) 8名 (幹事) 6名 (運営協力者) 1名	
内容	発表	テーマについて町田市の現状や提案を、担当専門委員が発表 「町田市のスポーツ活性化案」 発表者：苅谷委員
	懇談	観光・スポーツ・コンベンション振興

発表 「町田市のスポーツ活性化案」の要旨

発表者：苅谷委員

いつでもどこでも

- ・「健康寿命日本一に挑戦する街・町田」をスローガンに、いつでも、どこでも、だれもがスポーツを楽しめる環境づくりを行う。
- ・スポーツ施設の利用率は90%以上と高いが、予約が取りにくく不満の対象になっている。
- ・スポーツ施設が市街地周辺に偏在しているため、小山、多摩境、相原地区にはスポーツ施設が少ない。
- ・女性のバドミントンやテニスには買い物がセットになっており、車で出て行くことが想定されるため、スポーツ施設の駐車スペースの整備が必要である。
- ・芝のグラウンドのメンテナンス経費を節減しつつ、市民参加型のスポーツを促進させるためには、人工芝への転換が必要である。
- ・小中規模スポーツ施設として、街区公園や近隣公園等を一部スポーツ施設に併用や転用、または、小中学校の運動場や体育館を利用する案もある。

プロスポーツ集団

- ・町田市はサッカーのレベルが高く、市民の関心も非常に高い。
- ・プロスポーツ選手やチームの育成は、メディアの活用とセットで行う。
- ・プロの選手が現役のうちに、引退後の生活やセカンドキャリア*教育をどのように支援していくかの検討が必要である。
- ・プロスポーツをサポートする組織の育成には、全市民を巻き込んだサポーター組織の確立と主カスポンサーの勧誘が必要である。
- ・プロスポーツをサポートする組織の育成には、時間と根気が必要である。
- ・スポーツを盛んにするためには、ジュニアからトップアスリートまでのピラミッド型の組織が不可欠である。
- ・Jリーグを抱える自治体がどういう取り組みや予算化をしているのか学ぶ必要がある。

スポーツと芸術の融合

- ・スポーツと芸術が融合するような、市民による市民のためのお祭り空間を創出する。
- ・各種スポーツ、踊り、歌、演芸、がらくた市、ガレージセールなど、パフォーマンス好きの町田市民が気軽に集まれる場所を中心市街地内の広場につくる。
- ・50周年記念まちだ市民早朝マラソンあるいは駅伝を行うことによって、前日は参加者の宿泊、レース後は参加者や関係者の飲食が見込める。

懇談 「観光・スポーツ・コンベンション振興」の主な意見

いつでもどこでも

- ・新たな地域活力を見出すための 1 つの起爆剤として、公園をスポーツや文化と融合させるような空間へと変えるべきである。
- ・スポーツ施設が少ない地区では、行政と地域の大学とが連携して、いろいろなスポーツ教室の開催を考えていくのがよい。
- ・最近の新しい公園では、幼児対象エリアとそうでないエリアが分かれているところがある。
- ・公園改革みたいな改善案を市民から募集するとおもしろい。
- ・小中学校の運動場や体育館の使い方を議論すべきかもしれない。
- ・メジャーなスポーツだけではなく、いろいろなスポーツを行う中で、体を動かし、競い合い、人と交流できるような機会がたくさんあってもよい。
- ・乗馬など都心ではできないスポーツや、自然とスポーツが一体となるようなものは町田市だからできるスポーツといえる。
- ・スポーツとファッション、スポーツ医学とスポーツツーリズム*など、スポーツを通じた産業育成が考えられる。

プロスポーツ集団

- ・イベントの財源については、スポーツを「する」「見る」ターゲットを明確にすることによって、そのターゲットにマーケティングしたい会社がスポンサーになってくれる。

スポーツと芸術の融合

- ・都道である原町田大通りを市の道路に移管し、イベントを開催しやすくするという構想もある。
- ・選手は全部外国人だが、地域の人が環境の整備を行う代わりに、一流のプレーを見ることが出来る「ウインブルドン方式」というのもよい。
- ・健康やスポーツをより生活に組み入れて、それを実行する人をターゲットとしたイベントや会議ができればいい。
- ・スポーツ、音楽、踊りをする人に、みんなに見せることのできる場所を提供することが大事である。
- ・町田といえば、「〇〇甲子園」みたいな仕掛けもあり得る。
- ・大会を誘致するスポーツコミッションのような組織があってもいい。



(5) 第 5 回地域活性化懇談会

開催日	2007年10月4日(木)	
会場	サン町田旭体育館 会議室	
出席者	(委員) 8名 (幹事) 8名	
内容	発表	テーマについて町田市の現状や提案を、担当専門委員が発表 「文化と観光～賑わいをつくる～」 発表者：高橋委員
	懇談	文化芸術振興

発表 「文化と観光～賑わいをつくる～」の要旨

発表者：高橋委員

文化享受能力

- ・ブランドというのは、一定程度の情報に基づく消費者の期待感のことであり、その期待感を裏切らないよう、いろいろな提供価値を打ち出していくことが必要である。
- ・町田ブランドのファンを作るためには、町田市の中に情緒的な価値がないといけない。
- ・町田市に行きたくなる価値を創出するために、町田市の文化的な資源を結合して創造的な成果を生み出し、外に向けて発信し、クリエイターと消費者と市民をつなぐ場づくりのサポートをするコーディネーターが必要である。
- ・文化における一定の享受能力が市民にあることが必要である。
- ・文化の享受能力を向上するには、幼児期における芸術文化活動のサポートや、小中学校一貫教育による芸術文化カリキュラムの導入を行うのもよい。

文化的演出

- ・文化観光には、魅力創出のためのソフトウェアとして観光資源に調和した文化的な演出が有効である。
- ・文化で集客を考えたときには、演出された真正性*を容認しながら進めないと、人は集まらない。
- ・文化的演出の方法として、映画のロケセットをそのまま観光施設とする産業遺産や、わざと古い街並みを作り出す再現展示がある。
- ・文化でまちづくりや集客をしていくとき、市民との協働作業は欠かせない。
- ・国際版画美術館や博物館における文化的演出による展示手法の見直しが必要である。
- ・町田市民による町田の宝の再発見と文化的演出手法の検討を行う。

持続的地域経営集客モデル

- ・MAPA*を設立し、それを支える組織づくりを持続可能な市民協働モデルとする。
- ・賑わい創出のための人材確保と育成を行う。
- ・地域特性に応じたコンベンション*を誘致する。

懇談 「文化芸術振興」の主な意見

文化享受能力

- ・日本では幼児や小中学生に対する芸術文化教育が遅れている。
- ・魅力的、歴史的な町田市文化があっても、使いにくくてうまく活用できていない。
- ・20年後に町田ブランドを強みにするには、20年後に社会で活躍する小学生への教育が大事である。
- ・「あなどられない」人になるために、何をすればいいかということを考えさせるだけでも、文化の享受能力の向上につながる。

文化的演出

- ・観光や集客の成果測定が難しい。
- ・過度な演出よりも、本物らしさに価値を見出すことが必要である。
- ・賑やかな「晴れ」の観光でもなく、平凡な日常生活でもないものをまちの中に演出として作り出すことは、市民の生活の質の向上につながる。
- ・イベントやコンベンションの場合、直接的な効果や雇用の創出という間接的な効果だけではなく、知名度や国際度の向上という戦略的效果も含めて提示すべきである。

持続的地域経営集客モデル

- ・町田市での学会開催は、交通の便から不利だが、ゆったりした学会なら可能性はある。



(6) 第 6 回地域活性化懇談会

開催日	2007年11月29日(木)	
会場	町田市役所 市長公室	
出席者	(委員) 8名 (幹事) 7名 (運営協力者) 1名	
内容	発表	テーマについて町田市の現状や提案を、担当専門委員が発表 「磨けば光る北部丘陵」 発表者：池邊委員
	懇談	北部丘陵

発表 「磨けば光る北部丘陵」の要旨

発表者：池邊委員

アクセス整備

- ・アクセスが悪いため、市民はもとより東京都民・神奈川県民の認識度が低い。
- ・道路が整備されておらず、大型バスが入れないため、学校の遠足や農業体験の場として利用できない。

景観再生

- ・愛情が注がれているという美しい景観があまり見られない。
- ・地形を生かしたバラ園を整備するのもよい。

地域・企業の活用

- ・広大な農林地の多くは荒れており、これを再生することは管理や整備に莫大な費用が必要になる。
- ・管理主体となり得る地元や NPO 団体が有名であるがゆえに、一般市民が入りにくい状態になっている。
- ・NPO のメンバー数は、他市の公園整備に携わるメンバー数と比較して非常に少ない。
- ・主婦パワーや企業の CSR (企業の社会的責任) *活動を活用する。
- ・マクロな植生調査を行って、長期的な視点での土地利用計画を策定する。

施設整備

- ・鶴見川源流以外に認識される緑地資源の魅力が乏しい。
- ・北部丘陵の市有地は、点在しているため大規模整備は難しい。
- ・市が主催している農業体験事業は、市の人口から考えると小規模である。
- ・北部丘陵に整備する施設には、周囲の類似施設と差別化されていること、新しいシステムでの運営ができること、若者や女性をターゲットとしていること、収益性や雇用が確保されていることが必要である。
- ・市制 50 周年をきっかけとして、誕生の森ゾーン、思い出の森ゾーン、ガーデニングゾーンからなる「未来の森」構想はどうだろうか。
- ・新しいアイデアを募集し、それを企業化する助成制度を創設するのもよい。

市職員の能力向上

- ・かつて北部丘陵に開発計画があったが、中止になった経緯がある。
- ・市民に北部丘陵の活性化の必要性が認識されていない。
- ・企業や市民との協働事業を企画し、運営することが必要である。

懇談 「北部丘陵」の主な意見

アクセス整備

- ・みんなが同じようにアクセスするのではなく、自然を保全するためにアクセスする人にはインセンティブを与え、通過するだけの人には負担してもらうような仕組みを検討したほうがよい。

景観再生

- ・インストラクターがいて、手の入った自然で、体験・ふれあいができるレベルの里山景観を作り出すと、人は集まりやすくなる。
- ・緑の価値をもっと高める方向にもっていく。

地域・企業の活用

- ・維持管理の担い手を 23 区居住者や大学生まで広げ、初心者でも手軽に体験ができる場を提供する。
- ・町田市だけで管理するのではなく、東京都や周辺市の負担についても検討すべきである。

施設整備

- ・林道を整備することによって、スポーツ選手はトレーニング、市民はハイキングとあらゆる人が利用できる。

市職員の能力向上

- ・「北部丘陵」という名称を広域的に見ても受け入れられるものに変更したい。
- ・北部丘陵をどうするかというビジョンを示さないとうまくいかない。



(7) 第7回地域活性化懇談会

開催日	2008年1月31日(木)	
会場	町田市民文学館 大会議室	
出席者	(委員) 8名 (幹事) 8名 (運営協力者) 1名	
内容	発表 ・ 懇談	これまでのまとめをテーマ担当部が発表 「北部丘陵」 発表者：北部丘陵担当部長 「文化芸術振興」 発表者：生活文化担当部長 「観光・スポーツ・コンベンション振興」 発表者：生涯学習部長 「中心市街地活性化」 発表者：環境・産業部長 「交通・街づくり」 発表者：都市計画部長

発表 「北部丘陵」今までの懇談を受けて検討している項目

発表者：北部丘陵担当部長

○樹木葬*

- ・市民の墓地需要がある。
- ・民間の無秩序な墓地造成を抑制するという目的もある。

○トレーニング場

- ・有力な企業の長距離走や大学の駅伝チームのトレーニング場や走路を整備する。

懇談 「北部丘陵」の主な意見

景観再生

- ・墓地造成の抑制ということなら、樹木葬も意味がある。

施設整備

- ・走る施設やコースを整備するだけでなく、汗の始末ができる施設もあってほしい。
- ・健康な感じの方がイメージづくりとしてはいい。
- ・景観を楽しめるマラソンコースの整備に、市民が何か寄与している状態をつくる。



発表 「文化芸術振興」今までの懇談を受けて検討している項目

発表者：生活文化担当部長

○コンクール

- ・市民がピアノ、バレエなどのコンクールを開催している。
- ・一流のオーケストラコンサートの開催には、限られた資源の中での制約があるが、入場料を高めを設定するなどの努力している。
- ・能、歌舞伎などの伝統芸能の催しは、空席が目立っても続ける必要がある。

○練習の場

- ・ある団体に、練習会場として市の施設を専有で貸し出しているが、平等性の問題がある。
- ・市民の芸術活動における練習の場を提供する施設づくりが必要である。

懇談 「文化芸術振興」の主な意見

文化享受能力

- ・市民の企画力や実施能力の向上をサポートする場があってもいい。
- ・町田市で開催する催し物をプロモーターやイベンターに持ってきてもらう流れを作り上げる方が、文化活動を通じた集客力の向上に寄与する。
- ・文化活動を通じた集客力の向上のためには、良質なハード整備は欠かせない。
- ・良質な施設と良質な観客がそろえば、良質な催し物も開催される。
- ・「ウインブルドン方式」のようなある部分の拠点やいろいろなユニークな人が集まる場は大事である。
- ・音楽をする子どもたちに練習や発表の場をうまく提供できればいい。
- ・一流のオーケストラの練習風景を、小中学校の子どもたちが見られるようにし、音楽に触れる機会をつくる。
- ・子どもたちが一流のものに触れる機会を作ることによって、文化の全体的な底上げが図れる。
- ・一流の人に触れる機会は、施設がないからできないのではなく、企画力でカバーすべきである。



発表 「観光・スポーツ・コンベンション振興」今までの検討を受けて議論している項目

発表者：生涯学習部長

○スポーツ

- ・今まで、体育館でのイベント利用に関心がなかった。
- ・体育館の利用者は高齢者が多いため、結果的に若者を排斥していることも否めない。

○コンベンション

- ・エリアプロモーションの調査や計画を立てる予定がある。
- ・NPOのおもてなし機能の強化方法の検討をしていく。

懇談 「観光・スポーツ・コンベンション振興」の主な意見

いつでもどこでも

- ・公共施設のリニューアル案を市民と一緒に作り、そのプロセスを市民に公開する方法を取り入れていく必要がある。
- ・市民の意見を取り入れる方法をとる場合、行政が裁くのではなく、市民に裁いてもらうのがよい。

プロスポーツ集団

- ・各運動施設の観客動員数の統計がないのは、どのくらい収益が上がったかという経営的な視点が欠けているからである。

持続的地域経営集客モデル

- ・地域観光におけるサービスの担い手は、住民やNPOである。
- ・観光における今の消費者ニーズは、地域の体験的なもの、地域で生活している人や資源に触れたいということであり、町田市には既存の観光事業者は多くないため、しがらみなく始められるメリットがある。

発表 「中心市街地活性化」今までの懇談を受けて検討している項目

発表者：環境・産業部長

○地域特性をとらえた活性化づくり

- ・原町田地域への居住を促進する。
- ・多摩境、南町田の街づくりを検討する。
- ・文化芸術ゾーンを創出する。
- ・ペDESTリアンデッキの整備、拡張を検討する。
- ・業務地区の創設を検討する。
- ・バスターミナルの拡充を検討する。

懇談 「中心市街地活性化」の主な意見

歴史・文化

- ・町田駅を中心とした半径 10 キロ圏内に 180 万人住んでいるというポテンシャルを生かすために、町田駅をその風格に合うようにする必要がある。
- ・町田市のアップダウンがある地形に見合った形の街づくりの計画が必要である。
- ・このエリアをどう開発するかを国際コンクールにかけるのもよい。

再投資

- ・民間の再投資を誘導するために、エリア分けをきっちり設定して、特区で規制条件を外すことはできる。
- ・鉄道が交差しており、分断されているエリアが独自の特徴を持ちやすいため、それぞれをどう形成していくかがポイントになる。

発表 「交通・街づくり」今までの懇談を受けて検討している項目

発表者：都市計画部長

○公共交通の充実

- ・連節バス*、バス専用レーン*、PTPS*を検討する。

○団地の建て替え

- ・一部の団地では建て替え事業が始まっている。
- ・市内の他地区の団地の建て替え計画をどのように展開するのかを検討する必要がある。

○街づくり団体の育成

- ・市民主導の街づくりの再構築を行うために、市民団体にアドバイザーの派遣や活動費の助成をしている。
- ・市民の参画を得ながら、2009年度中に景観計画あるいは景観条例を作りたい。

懇談 「交通・街づくり」の主な意見

街づくり

- ・市民に、将来を考えたり、夢を広げるための議論する場を提供するなどして、いろいろなアイデアが次々出る状態はあった方がいい。

テーマ：中心市街地活性化

- ・中心市街地は、ロットの大きさ、家賃、客層から全国展開している店舗が入りやすい。
- ・中心市街地の真ん中は、サラリーマンが帰りに一杯飲んでいくところだったので、そのにおいては簡単には取れない。
- ・おしゃれなお店がフリンジ*部分に出てくるとおもしろい。
- ・居心地のいい空間や環境になるために行政が投資することによって、自然発生的にいろいろな方も投資してくれるようになる。



(8) 第 8 回地域活性化懇談会

開催日	2008年3月25日(火)		
会場	まちだ中央公民館 ホール		
出席者	(委員) 8名 (傍聴) 職員 120名		
内容	発表	これまでの議論の総括とともに将来に向けたコンセプトについて、専門委員が発表	
		「交通・街づくり」	発表者：中井委員
		「観光・コンベンション・スポーツ振興」	発表者：苅谷委員
		「文化芸術振興」	発表者：高橋委員
		「北部丘陵」	発表者：池邊委員
		「中心市街地活性化」	発表者：黒川委員
	シンポジウム	地域活性化に向けて	

市長の挨拶の要旨

- ・これまでの懇談会では、行政が今までやってきていない新しいアイデアやコンセプトを専門委員に提案、議論していただいた。
- ・行政職員の常識をもって判断すると、現実的でない、やったことがないとなることも、自分の仕事になるかもしれないという気持ちで聞いてほしい。

発表 「交通・街づくり」の要旨

発表者：中井委員

公共交通不便地区

- ・高齢化が進んだとき、最低限人々が移動する権利をどのように保障するかを考えると、地域と行政と事業者が協力して公共交通を提供することが必要になる。

自動車抑制、公共交通の充実

- ・自動車を抑制させるために、代替の交通手段の整備や、自動車への規制が有効である。
- ・バスの定時性、速達性*を向上させる方法として、PTPS*、連節バス*、バス専用レーン*、BRT システム*があげられる。

土地利用

- ・大規模開発された住宅をどう生かしていくかが課題である。
- ・持続可能な住宅地にするために、どういう人が次に入るかを今から考えておくのは、町田市の住環境やコミュニティの再構築を考える上で大きな要素となる。
- ・小さな住宅開発を含めて、土地利用のあり方を検討する必要がある。

街づくり

- ・たくさんある市民活動団体は、街づくりの方向にうまく調整されていない。
- ・市民主導型の街づくりは、立ち上げ期から次の発展期に差し掛かっているため、一つの大きな方向に運動を調整していくには、行政の意識を切り替えていく必要がある。

発表 「観光・コンベンション・スポーツ振興」の要旨

発表者：苅谷委員

いつでもどこでも

- ・「健康寿命日本一に挑戦する街・町田」をスローガンに掲げる。
- ・町田市のスポーツ施設の特徴として、利用率が高い、女性のスポーツ熱が高いことがあげられる。
- ・スポーツ施設に対する課題として、地域格差、駐車スペースの確保があげられる。
- ・だれでもスポーツを楽しむには、小中規模のスポーツ施設が必要である。

プロスポーツ集団

- ・「フットサルの故郷・町田」を提唱し、活性化のイメージ戦略の一つとして、プロスポーツチームを育成していく。
- ・プロの選手と、いつでもどこでもみんなが楽しめるようなスポーツ環境をどのように育成していくかを検討する必要がある。

スポーツと芸術の融合

- ・中心市街地に、みんなが寄り集まって、自分のパフォーマンスを披露できるお祭り空間をつくる。

発表 「文化芸術振興」の要旨

発表者：高橋委員

文化享受能力

- ・質の高い文化なしに、現代の消費者や住民のニーズには応えられなくなってきている。
- ・文化によって集客を図る場合、地域に一定程度の文化の享受度が高い人を養成する必要がある。
- ・文化の享受能力が高い人を養成するために、小中学校の一貫教育の推進事業の中で芸術文化カリキュラムを展開する。

文化的演出

- ・文化的演出とは、再現可能な技術として魅力的な演出をしていくソフトウェアのことである。
- ・文化的演出によって、展示手法を再検討するのもよい。
- ・町田市民によって町田の宝を再発見して、ボランティアでのガイド活動などをするのもよい。

持続的地域経営集客モデル

- ・地域の魅力を高め、賑わいを作る仕掛け、地元の観光商品、コンベンション*の誘致などの機能を持った MAPA* を立ち上げる。

発表 「北部丘陵」の要旨

発表者：池邊委員

アクセス整備

- ・北部丘陵の位置づけに見合うアクセスを整備する。
- ・北部丘陵の価値をアピールし、見える、行ける、楽しめる場所にする。

地域・企業の活用

- ・市民や企業による植林や樹林地管理、里山管理、谷戸の管理ができるとうい。

施設整備

- ・スタート、ゴール、距離、折り返しの標識の設置や、安心して走ることができる道路を整備する。
- ・更衣施設やシャワールームがある休憩施設、里山管理やガーデニング作業の方が使用するログハウス形式の休憩施設を整備する。
- ・墓地需要圧力に対して、墓地ニュータウンができるのを防ぐために、樹木葬*という案もある。

発表 「中心市街地活性化」の要旨

発表者：黒川委員

歴史・文化

- ・行政界が長いから、町田市側で何かやっても、相手の得になると思うと何もできないという問題に気づいてほしい。

中心地と郊外

- ・町田駅を中心とした半径 10 キロ圏内に 180 万人が住んでいるにも関わらず、中心市街地を管理している町田市の住民は 1/4 しかいないために、ポテンシャルを発揮できずにいる。
- ・町田市内の中心地と郊外を比較すると、郊外のほうが多く投資されているため、中心地への投資の余地がある。

時間消費

- ・容積率が 2～3 割増え、中心市街地の居住者も増えることによって、消費のポテンシャルが高まる。

シンポジウム 「地域活性化に向けて」の主な意見

テーマ：観光・コンベンション・スポーツ振興

- ・町田市には新住民の方が一定程度いるため、市民の気持ちが一つになれるようなことを作り上げていく作業が必要である。

テーマ：中心市街地活性化

- ・180 万人都市というポテンシャルがあるのに行政が動き出さないのは、中心市街地が行政の狭間になっているからである。
- ・ペDESTリアンデッキに蓋をして、お祭りやスポーツ、イベントが開催できる空間にするとよい。

(9) 第9回地域活性化懇談会

開催日	2008年8月6日(水)	
会場	町田市文化交流センター けやき	
出席者	(委員) 8名 (幹事) 8名 (運営協力者) 1名 (傍聴) 市民 11名	
内容	発表	2007年度の懇談を受け、庁内でテーマごとに研究・検討してきた町田のブランドを高めるための提案を、テーマ担当部が発表 「観光・コンベンション」 発表者：経済観光部長 「文化芸術振興」 発表者：文化スポーツ振興部長 「スポーツ振興」 発表者：文化スポーツ振興部長 「北部丘陵」 発表者：北部丘陵担当部長 「交通・街づくり」 発表者：都市づくり部長 「中心市街地活性化」 発表者：経済観光部長
	懇談	地域活性化に関する部の提案について

発表 「観光・コンベンション」の要旨

発表者：経済観光部長

○目指す姿

- ・都市ブランドとしての町田ブランドを確立して集客力を高め、地域経済を活性化する。

○具体的な取り組み(提案)

- ・組織の設立と着地型の観光プログラムづくりを行う。
- ・フィルムコミッション*設立によるドラマ、映画ロケの誘致を行う。
- ・スポーツや文化芸術に関する大会の誘致、運営を行う。

発表 「文化芸術振興」の要旨

発表者：文化スポーツ振興部長

○目指す姿

- ・地域の魅力を再発見することにより、特徴ある魅力的な文化ゾーンを創造し、心豊かで活力にあふれた街を実現する。

○具体的な取り組み(提案)

- ・文化芸術資源、施設や都市空間に文化的演出を加える。
- ・町田市の代表的な姿の一つでもある団地を改装し、団地博物館や美術館として活用する。
- ・市民の文化を大切にする。
- ・中心市街地の道路で、若者文化を表現できるようにする。

発表 「スポーツ振興」の要旨

発表者：文化スポーツ振興部長

○目指す姿

- ・多くのホームタウンチームやトップアスリートが市民の支えで活躍し、町田市がスポーツ選手と笑顔で出会える街となる。

○具体的な取り組み（提案）

- ・多様なサポーターを集結させる。
- ・イベントやメディアを通して、自ら応援を楽しむ多様な機会をつくり出す。
- ・アスリートが地域貢献を行う機会を確保する。
- ・けがや引退後の心配がないように選手のセーフティネットを整備する。
- ・アスリートが最も輝く競技の場を提供する。
- ・ホームタウンチームやトップアスリートが市民とともに活躍できる仕組みをつくる。

発表 「北部丘陵」の要旨

発表者：北部丘陵担当部長

○目指す姿

- ・首都圏の人々の心を癒し、魅了する自然とふれあう谷戸山*空間を目指す。

○具体的な取り組み（提案）

- ・持続可能な農環境整備を行う。
- ・谷戸山環境を保全再生する活動を行う。
- ・谷戸山の自然とふれあう学びの場の整備を行う。
- ・ふれあい・憩い・味わい・癒しの空間整備を行う。

発表 「交通・街づくり」の要旨

発表者：都市づくり部長

○目指す姿

- ・大気汚染物質や地球温暖化ガスの排出が少なく、北部丘陵からさわやかな緑の風が吹き抜けていくような風格のある街を目指す。

○具体的な取り組み（提案）

- ・PTPS*、連節バス*、BRT システム*、バスの駅を導入する。
- ・公共交通利用に対するインセンティブを検討する。
- ・中心市街地における自動車抑制の仕組みを検討する。

発表 「中心市街地活性化」の要旨

発表者：経済観光部長

○目指す姿

- ・180万人都市圏の中心となり、多くの人を引き寄せる魅力のある街を目指す。

○具体的な取り組み（提案）

- ・業務機能を集積する。
- ・文化・やすらぎ機能を整備する。
- ・ターミナル機能を整備する。
- ・居住機能を検討する。
- ・自然環境を整備する。
- ・中心市街地の回遊性を整備する。

懇談 「地域活性化に関する部の提案について」の主な意見

全体を通して

- ・ 町田市の職員が町田市民を対象としてつくったプランに聞こえる。町田駅を中心として 10 キロ圏内に住む人の 3/4 は神奈川県民であるため、市外の人も対象に含めたプランを考えたほうがよい。
- ・ 団地や中心市街地の活性化は、市民が将来の土地利用を想定しながら、イメージができるようにして、みんなの力を集結できるような環境を作ることが重要である。
- ・ 行政サービスの提供の仕方が、「いつでも、どこでも、誰でも」ではおもしろくないので、「自分だけ、ここだけ、いまだけ」という感覚になってほしい。
- ・ 目標の明確な到達地点のイメージが共有しにくい。
- ・ 拠点都市としては懐の深さみたいなものが必要で、誰が得をして、それを誰がサポートするのかを理解した上で、市民がサポートすると、自分たちだけではなく他の人が認める地域になっていく。
- ・ 市民が変化の期待感を持てるようなものを提案してほしい。
- ・ 職員の思い入れが仕事を前に進める。

テーマ：観光・コンベンション・文化芸術振興

- ・ 住民中心の自立的な観光が育つようにサポートをしていくことが、町田らしさを生み出すことにつながる。

テーマ：スポーツ振興

- ・ 競技場、選手、観客が一体となれるようなスタジアムを整備するのはどうか。

テーマ：北部丘陵

- ・ 北部丘陵を開発する際の環境負荷と価値がどのくらいかをチェックし、その結果に応じて、開発の範囲を決める。

テーマ：交通・街づくり

- ・ 大規模なリニューアルの投資効果を 20 年先を見すえて考えなければ、解決の 1 歩が進まない。
- ・ バスを上手に使うという提案は、お金がかからない賢いシステムである。

(10)第 10 回地域活性化懇談会

開催日	2008 年 10 月 28 日 (火)	
会場	町田市民病院 講義室	
出席者	(委員) 7 名 (幹事) 8 名 (運営協力者) 1 名 (傍聴) 市民 12 名	
内容	発表	第 9 回で発表したテーマ担当部の提案をコンセプトツアーという形で一つにまとめ、テーマ担当部を代表して政策経営部長が発表 「まちだツアー」 発表者：政策経営部長
	懇談	地域活性化について

発表 「まちだツアー」の要旨

発表者：政策経営部長

○180 万人都市の設え

- ・ 5 つのテーマの要素をクロスさせることによって、付加価値を生み出せるのではないかと考え、テーマの枠を取り払った。
- ・ 活性化のために、「町田ブランド」を高めることを目指す。
- ・ 近隣都市も視野に入れた活性化という意味で、活性化のコンセプトを「180 万人都市の設え」とした。
- ・ 北部丘陵地域を（仮）東京田園の杜と名前を変える。
- ・ 町田市の要素の一つでもある団地の活性化も考える必要がある。
- ・ 町田駅を中心とした半径 10 キロ圏内に住む 180 万人を呼び寄せるために、BRT システム*やPTPS*などを導入し、南北のアクセスを強化する。
- ・ 中心市街地では、車の進入を抑制するため、フリンジ*に駐車場を整備し、誰もが安心して通行できる歩行空間を確保する。
- ・ 道案内してくれるまちなか案内システム*を整備する。
- ・ 民間の再投資の呼び水となるようなインパクトのある公共投資を行う。
- ・ 180 万人を受け入れるための仕組みとして、MAPA*や公共交通の推進プラン、全国規模のネットワーク形成を検討する。

○まちだツアー ～20 年後の町田～

〈中心市街地〉

- ・ ペDESTリアンデッキは蓋がかけられ、駅前に広場ができ、若者や高齢者をはじめいろいろな人が集っている。
- ・ 駅のすぐ近くには、ホテルやレストランなど複合的な機能を備えたスタジアムがある。
- ・ 歩行空間を確保した結果、並木道やオープンカフェが軒を連ねている。
- ・ 小さな畑を備えた（仮）東京田園の杜があり、街中で自然を感じることができる。

〈バスで移動〉

- ・ バスの駅から連節バス*に乗って、郊外に出る。
- ・ 幹線道路には、PTPS が整備されている。
- ・ 老朽化が目立っていた団地は建て替えられている。
- ・ 市民団体により、桜並木や花壇の整備と手入れがされている。

〈(仮) 東京田園の杜〉

- ・ 谷戸山*の田んぼや畑の景色が広がっている。
- ・ 循環型かつ都市型農業が定着している。
- ・ いろいろな景色を楽しめる散歩道が整備されている。
- ・ 小野路の宿通りでは、歴史を感じる建物や街並みを見ることができる。
- ・ 日本国内だけでなく、海外との交流も盛んに行っているフットパス*団体も活動している。
- ・ 古きよき田園風景の再生や、谷戸山の自然環境に配慮した整備も行っている。
- ・ 体一つで訪れれば野菜の栽培が楽しめるファミリー農園やとれたて野菜レストランがあり、おしゃれで手軽に農とふれあえる機会を提供している。

〈夜の中心市街地〉

- ・ 連節バスで町田駅に戻り、夜の博物館でナイトミュージアムが楽しめる。
- ・ 駅前には、シネマや温泉、ジャズ、パーティなど素敵な時間を過ごせるアイテムが豊富にある。

懇談 「地域活性化について」の主な意見

全体を通して

- ・ 町田駅を中心として 10 キロ圏内に住む人が 2012 年では 180 万人であるが、20 年後には 192 万人になっていることが想定されるため、それを先回りして受け止めて欲しい。
- ・ 活性化の担い手として、高齢者と子どもたちをどのように動員していくかが重要になる。

テーマ：観光・コンベンション・文化芸術振興

- ・ 観光は、住民主体でやるのがよく、その場合、コミュニティビジネスなどに参画する人をどのように見つけるかが大事である。
- ・ さまざまな階層や職業の人が集まることによって、市民団体や NPO を支える原動力になる。

テーマ：北部丘陵

- ・ エコ+おしゃれ+手軽というのは、農に若い女性を引き付ける条件である。

テーマ：交通・街づくり

- ・ 交通だけで考えるのではなく、コンパクトシティ*のコンセプトにあるように職住近接型の人間の行動様式の中で考えたほうがよい。
- ・ BRT システムには、こまめに地域を回るフィーダー型路線*がセットになっていないといけない。
- ・ 地域の NPO が団地の施設を使い、活動することによって地域力が高まる。

テーマ：中心市街地活性化

- ・ 町田市は大きな企業を誘致するには地価が高すぎるが、IT 系やファッションデザイン系なら可能性がある。

參考資料

【用語解説】

(五十音順)

LRT

Light Rail Transit（次世代型路面電車システム）の略称で、低床で騒音の少ない路面電車のことをいう。

（第1回懇談会概要に掲載）

クリチバ

ブラジルの都市で、バスを中心とした公共交通依存型都市を作り上げたことで有名である。定時性・速達性を確保するために新たなバスシステムを構築したこと、バス路線の道路を拡幅するために沿道建築物の容積率を上げたことが特徴である。

（第2回懇談会概要に掲載）

公共交通不便地区

鉄道駅やバス停から一定距離以上離れ、徒歩でのアクセスが困難な「交通空白地区」と、鉄道や路線バスは運行されているが運行頻度が極端に低い「交通不便地区」との総称のことをいう。

（第2回懇談会概要に掲載）

コミュニティバス

地域住民、民間事業者、市の三者協働のもとで、公共交通不便地区の解消とだれもが利用可能な公共交通サービスの拡大を目指して、運行しているバスのことをいう。

京都市醍醐の場合、NPOが中心となってコミュニティバスを運行している。

（第2回懇談会概要に掲載）

コンパクトシティ

地域の中心部に都市機能を集約させることをいう。

（第2・3・10回懇談会概要に掲載）

コンベンション

国際会議、シンポジウム、演劇、音楽、展示会など大規模な催しのことをいう。

（第5・8回懇談会概要に掲載）

CSR（企業の社会的責任）

Corporate Social Responsibilityの略称で、企業の社会的責任と訳されることが多い。具体的には、コンプライアンス（法令遵守）、コーポレートガバナンス（企業統治）、ディスクロージャー（情報開示）など、一般に企業が社会に対して果たすべき「責任」と捉えられている。

CSRには、消費者、従業員、取引先、地域住民などの幅広いステークホルダー（利害関係者）との双方向のコミュニケーションが重要であると言われている。

（第6回懇談会概要に掲載）

樹木葬

墓石の代わりに木をお墓の目印とした墓地のことをいう。桜などの大木の下に眠りたいという方については、共同墓地の形もある。

（第7・8回懇談会概要に掲載）

真正性

本物っぽさのことをいう。

（第5回懇談会概要に掲載）

スポーツツーリズム

スポーツをテーマとした旅行や観光のことをいう。

（第4回懇談会概要に掲載）

セカンドキャリア

ここでは、プロスポーツ選手の引退後の仕事のことをいう。

プロスポーツ選手でいられる期間は短く、多くの現役選手が引退後の生活を不安に感じているため、現役のときから引退後の生活を考えておく必要がある。

（第4回懇談会概要に掲載）

定時性・速達性

定時性はいかに遅れが少なく時刻表どおりの運行がなされているかを示す指標、速達性は所要時間の短さを示す指標のことをいう。道路混雑に伴うこれらの指標の低下が、バス利用者減少の一因となっている。

（第2・8回懇談会概要に掲載）

トランジットモール

中心市街街の通りを、一般の車両通行を抑制した歩行者用の空間とし、バス、路面電車など公共交通機関だけが通行できるようにした通りのことをいう。

（第3回懇談会概要に掲載）

乗り合いタクシー

道路運送法では1 台のタクシーに不特定多数の乗客を相乗りさせることは禁止されているが、バスを走らせるほど需要がない地域や深夜などに限定し、特別な許可により運行が認められたタクシーのことをいう。ルートが決まっており、運賃も乗車人数による頭割りではなく定額制となっている。

(第2 回懇談会概要に掲載)

バス専用レーン

バスの定時性・速達性を高めるため、交通規制によってバス以外の自動車の進入を制限する車線のことをいう。通常、片側2車線以上の道路が必要とされる。

(第2・7・8 回懇談会概要に掲載)

BRT システム

Bus Rapid Transit (高速バスシステム) の略称で、一度に乗り降りできるバスステーションや、バス専用レーンの設置により、バスの定時性の確保を目指す仕組みのことをいう。

(第2・8・9・10 回懇談会概要に掲載)

PTPS

Public Transportation Priority System (公共車両優先システム) の略称で、バスが接近すると前方の信号の青時間を延ばし、バスの速度が低下しないようにする仕組みのことをいう。バスレーンとセットで整備することにより効果が高まる。

(第2・7・8・9・10 回懇談会概要に掲載)

フィーダー型路線

バス路線の幹線の端を出発地点とし、市内の各地域内をきめ細かくカバーする支線バス路線のことをいう。

(第2・10 回懇談会概要に掲載)

フィルムコミッション

映画、テレビ、CMなどのロケ撮影に際し、ロケ場所の紹介、許可・届出手続きの代行、撮影スタッフの宿泊施設やお弁当の手配などの支援を行う組織のことをいう。

(第9 回懇談会概要に掲載)

フットパス

イギリスを発祥とする森林や田園地帯、古い街並みなど、地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと (Foot) ができる小径 (Path) のことをいう。

(第10 回懇談会概要に掲載)

フリンジ

中心に対する外縁部のことをいう。この懇談会では、中心市街地エリアの外縁部のことをいう。

(第3・7・10回懇談会概要に掲載)

街づくり条例

市民、事業者、市が一緒になって(協働により)、お互いの責任や義務(責務)を尊重しながら、住民主体の取り組みを推進し、地域や地区の個性を生かした住みよい街づくりを実現していくためのしくみを条例として定めたものである。

(第2回懇談会概要に掲載)

まちなか案内システム

中心市街地を訪れる来街者にとって「わかりやすいまち」を目指すため、公共サインと携帯電話を利用した誘導システムのことをいう。

(第10回懇談会概要に掲載)

MAPA

Machida Area Promotion Agency(町田エリアプロモーションエージェンシー)の略称で、地域の魅力を高めて賑わいをつくる仕掛けや仕組みづくり、地元の観光商品の開発と販売、地域の観光魅力の情報発信、一定の財源確保のための観光施設の委託事業、魅力的な土産物とか名物料理の開発、コンベンション誘致、賑わい進行を担うための市民を含めた人材育成を役割とする。

(第5・8・10回懇談会概要に掲載)

谷戸山

現在一般的に使われるようになった「里山」と同義の言葉であるが、特に、町田市に特徴的な緩やかな谷とその周りを取り囲むなだらかな丘・樹林からなる小さな流域や地形を「谷戸山」と表現した。

(第9・10回懇談会概要に掲載)

連節バス

一度の運行で大量の乗客を輸送できるよう、2台の車両をつなげた形状のバスのことをいう。

(第2・7・8・9・10回懇談会概要に掲載)

町田市地域活性化懇談会 概要

発行者 町田市政策経営部企画調整課

東京都町田市中町1-20-23

〒194-8520 TEL042-722-3111 (代)

発行日 2009年3月

編集 町田市地域活性化懇談会事務局

印刷 庁内印刷

刊行物番号 08-97